

第1回 岡谷市行政改革審議会 会議録

以下のとおり、会議の内容について報告いたします。

- 会議名 令和7年度 第1回 岡谷市行政改革審議会
- 日時 令和7年7月14日（月） 午後3時00分～午後4時30分
- 場所 庁舎9階大会議室
- 出席者 委員 内海 一嘉 委員 奥原 一由 委員 小口 敬子 委員
小坂 一史 委員 五味 和也 委員 佐藤 一樹 委員
下島 一徳 委員 御子柴文夫 委員 宮坂真由美 委員
宮坂 勇 委員 吉池みさ子 委員
事務局 企画政策部長：岡本 典幸 企画課長：清水 亮
統括主幹：花岡 潤 主査：林 綾子
- 欠席者 木村 和彦 委員 濱 輝美 委員
- 配布資料（事前送付により配布）
 - 資料①_【令和6年度進捗状況】第2次岡谷市行財政改革プログラム進捗状況（進捗率 ver）
 - 資料②_プログラム R6 取組報告
 - 資料③_計画のまとめ（R6 実績）
 - 資料④_プログラム R7 実施計画（当日、机上配布）
次第

●会議内容

1 開会（岡谷市民憲章唱和、あいさつ）

事務局 本日は、大変お忙しい中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。
会議に先立ちまして、岡谷市民憲章の唱和をしたいと思いますので、皆様ご起立をお願いいたします。お手元に配付されております次第の裏面に岡谷市民憲章が載っておりますのでご覧ください。

事務局 ～市民憲章唱和～

事務局 ありがとうございます。ご着席ください。

事務局 それでは、ただいまから令和7年度第1回岡谷市行政改革審議会を開会いたします。はじめに本審議会の会長よりご挨拶いただきたいと思います。

事務局 よろしく願いいたします。

会長 ～会長挨拶～

事務局 ありがとうございます。続きまして企画政策部長よりご挨拶申し上げます。

事務局 ～企画政策部長挨拶～

事務局 はい。ありがとうございます。本日の会議であります。委員13名中、出席委員11名で過半数を超えておりますので、岡谷市行政改革審議会条例第6条第2項により会議が成立することをご報告いたします。それではここから議事

に入ります。岡谷市行政改革審議会条例第 6 条により、進行は会長にお願いしたいと思います。会長よろしくお願ひいたします。

2 第 2 次岡谷市行財政改革プログラムについて

(1) 令和 6 年度取組状況について

会長 はい。それではこれから議事を進めてまいりたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

それでは次第に基づきまして会議を進行いたします。次第 3 の括弧 1、令和 6 年度取り組み報告について、事務局より説明をお願いいたします。

事務局 それでは、6 年度の取り組み報告ということで、説明させていただきたいと思ひます。まず初めに資料 1 の第 2 次岡谷市行財政改革プログラム実績進捗率の推移、資料 2 の令和 6 年度取り組み項目の実績、この 2 つの資料を合わせてご覧いただければと思ひております。

資料の内容になりますが、資料の 1 の方をご覧いただきますと、現在プログラムにつきましては令和 10 年度に掲げている目標、目標値の達成に向けて各年度取り組んでいくということで、各年度の実績値を記載していくような形の資料になっておりまして、各年度の進捗率進捗状況等をお示ししていくというような資料になっております。この進捗率の記載につきましては、計画策定当時の実績値、こちらを基準としまして令和 10 年度の目標値に向けて、該当する年度の実績をお示しし、その実績値の進捗率それから進捗状況というものを記載していくというような内容になっております。また、進捗状況の欄がございますけれども、こちらは A B C D 評価でさせていただいております。資料の上段に記載をしていますが、A については当該年度を現時点で目標達成したもの、それから B については、現時点においては目標値に向かって着実に進捗をしているという状況。C については現時点において目標達成に向けた効果が表れていない。それから D については目標値数値としては定めていない、または数値としての整理が難しいもの困難なものということで整理をしたアルファベット表記評価をさせていただいております。

それから資料 2 をご覧いただきますと、こちらはそれぞれの取り組み項目におけます令和 6 年度の取り組み内容というものを記載した内容になっておりますので、併せてご覧いただければと思ひております。それでは資料 1 を基本としながら説明をまいりますので、必要に応じて合わせて資料 2 もご覧いただきながらお願ひできればと思ひます。まず初めに、取り組み項目の 1 になります。公共施設等総合管理計画および公共施設個別施設計画の推進でございます。こちらは令和 6 年度の実績値でいきますと 29.09 万平米となっております。進捗率についてはマイナスの 6.43% となっております。こちら、資料 2 をご覧いただきますと、6 年度における面積の増減内容ということでお示しをしておりますけれども、トータルでは 548.97 平米の削減という形になっております。面積については当然建物の除却解体等によって削減という形になってきますが、この取り壊

しの他、実際には施設の廃止決定というような取り組みも行っている中で、そこにかかる管理経費の圧縮に繋がったというところの取り組みも行っているところでございます。

続いて資料1の6をご覧くださいまして、こちらは岡谷市役所イルフプラザ出張所業務の見直しになります。こちらは実績値をご覧くださいますと、274万4000円となっております。人件費の増加に伴いまして進捗率マイナス9.76%となっております。このイルフプラザ出張所につきましては、マイナンバーカードの交付率の上昇と、証明発行業務がコンビニで発行できるということで、こちらの交付件数が増加している。こういった状況を踏まえまして、イルフプラザ出張所につきましては、令和6年度をもって廃止としているところでございます。従って令和7年度実績では、人件費の削減というところに結びついてまいりますので、目標達成が見込めてくるというところでございます。それでは2ページ目をお願いいたします。7の情報システムの標準化共通化にあります。こちらは6年度実績では、6,008万8,000円となっております。進捗率マイナス72.74%となっております。このシステムの標準化・共通化につきましては今年度中のシステム稼働に向けて現在調整中というところでございますけれども、この取り組みの指標としております情報システムの運用経費でございますけれども、経費につきましては、昨今の物価高騰の影響等によりまして、当初の見込みから増加傾向にあるという状況です。具体的には機器の調達コストの関係、ソフトの利用料が当初の見込みより増加傾向にあるというような状況でございます。

次に12のマイナンバーカードの普及継続利用支援でございます。こちらはカードの交付率をご覧くださいますと87%となっております。こちらは介護施設等への出張窓口の実施ですとか、休日窓口等の対応によりまして、カードの交付率につきましては着実に上昇してきているというところでございます。

3ページ目をお願いいたします。15番のふるさと寄附金の促進になります。こちら寄付金額の実績をご覧くださいますと、1億6,759万6,000円でありました。昨年度比では7,756万4,000円の増、寄付件数でいきますと5423件となっております。昨年度比で2,228件の増という状況になっております。こちらは新規返礼品につきましては、金額それから件数ともに大幅な増となったという状況でございます。

それから18-2をご覧くださいまして、市税等の徴収率の維持向上でございます。こちらは、保育園の現年徴収率ということでございますけれども、こちらは実績100%となっております。保護者との面談等によりまして、効果的な徴収計画を立てるなどして、丁寧かつ迅速な徴収対応を行った結果という状況でございます。

続いて4ページ目をお願いいたします。21番になります。市債借入におけるキャップ制にあります。こちらは、市債残高をご覧くださいますと211億5,000万円となっております。こちらキャップ制の達成によりまして、市債残高の圧縮につながったという状況でございます。令和6年度実績では、令和10年度の目標値に掲げております215億円、この目標値を超えた圧縮に繋がったという結果

になっておりますけども、直近でいきますと今後につきましては、川岸学園構想の大型事業、岡谷駅周辺整備など今後、投資的な事業が始まってくることから今後の市債の借り入れが見込めておるといような状況でございます。

続いて25番EVの効率的な運用でございます。こちらは削減燃料で1,795リットルの削減となっておりますして令和5年度比25%の削減となったという状況でございます。こちらはEVの効果的な配車等によりまして燃料費の削減に繋がったという状況でございます。

5ページをお願いいたします。33、時代に即した採用手法の推進でございます。こちらは職員の充足率をご覧いただきまして、87.5%であります。策定時と比較をしまして、上昇してきているという状況でございます。こちらは就職採用活動にあたって就職情報サイトの活用ですとか、それから試験期日の前倒しなどの工夫により採用人数の確保に努めたという状況でございます。

それから38番になります。定員適正化計画の推進でございます。こちらは一般会計等の職員定数をご覧いただきまして、417名となっております。令和6年度につきましては、法改正に伴います組織体制の強化といった部分と、国民スポーツ大会が令和10年に予定されておりますけども、こちらの大会開催に向けた組織編成というところで強化をしまいったというところがございます。

主だった内容を申し上げましたが、以上が取り組み項目ごとの実施状況とそれから進捗状況でございます。続いて、資料3の令和6年度の第2次岡谷市行財政改革プログラムの進捗状況をご覧いただきたいと思っております。こちらご覧いただきますと評価別の進捗状況ということで、先ほどご説明申し上げました、AからDの評価ごとに件数それから割合の方を示しております。それから全体の進捗率としましては71.1%ということがございます。一定程度、この6年度をもってAということで現時点での目標を達成した状況もあったというところがございます。

その下の推進項目別の進捗状況をご覧いただきますと、こちらは推進項目ごとの評価状況をお示した内容になっております。一部では計画策定時よりも後退している状況、先ほどの実績値進捗率の状況でいきますと、マイナスという状況や一部後退しているものもありますが、全体的には目標達成に向けた取り組みが推進されているというような状況でございます。

以上が令和6年度の取り組み内容の報告ということになります。

よろしく願いをいたします。

会長 はい ありがとうございます。それでは事務局から説明があった内容について質疑に移りたいと思っております。事前に質問をいただいておりますので初めに事務局よりお願いいたします。

事務局 はい。では続いてよろしくお願いいたします。今回資料を事前にお配りさせていただきまして、もし事前に質問内容等あれば、お願いいたしますということでさせていただきます。いくつか事前に質問の項目いただいておりますので、まず初めにそちらの内容についてご説明させていただきます。

資料でいきますと、資料2の7ページをご覧いただきまして、24番の取り組み

になります。岡谷市役所の環境保全率先実行計画VIの推進でございます。まずこちらの進捗率でございます。3,968%という数字の捉え方、意味合いがわからないという質問をいただいております。こちらにつきましては、まず目標値としますと、令和元年度比で1.9%を削減するという目標値を掲げております。これはCO2に直しますと90.4tになります。今回この令和6年度の実績が75.4%の削減に至ったということで、3,587.6tのCO2を削減したということで、実績値が大幅に目標値を上回ったという状況になっております。この中身としますと、令和6年度の電気料につきまして、いわゆる再生可能エネルギーによる電力の契約が可能となったということから、実質CO2の排出量が実質ゼロというような形のカウントになりましたのでこのように実績値に大きく影響したという結果でございました。

ご質問の2点目としまして、同じく24の項目になりますけれども、資料中記載のあります令和10年度の目標のところの2行目の括弧書きのところになりますけれども、計画を策定した際に、令和10年の目標値を設定するとしております。こちらの意味合いがわかりづらいということでご質問をいただいております。こちらについては現在、岡谷市役所環境保全の実行計画VIの計画が令和3年から令和7年の5年間で、今動いているところでありまして今年度が現計画の最終年度ということになっております。したがって、一旦目標値に掲げた数字については、現計画の目標値を一旦掲げたというものでございますけれども、今年度、また新たな計画を策定する年ということで予定をしておりますので、新たに計画が策定された際には、改めてこの行革プログラムの中でいう、令和10年度の目標値を掲げさせていただくというような意味合いになっておりますのでそういったご理解をお願いをできればと思います。

事前にいただいた質問については以上になります。よろしくお願いいたします。

会長 　　ただいま回答いただきました内容につきまして、改めてご質問等ございますか。なければ、この他にご質問があればお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

委員 　　資料2の33番、職員の採用について伺います。福祉専門職の採用は行われているのでしょうか。また、充足率が87.5%とのことですが、この状況で業務は回っているのでしょうか。不足している約12.5%分については、どのように補っているのか教えてください。

事務局 　　専門職の採用についてですが、委員のおっしゃる通り、本市でも保育士や技術職などは人材確保が非常に厳しい状況です。本来であれば、業務量に応じた定数を設定し、それに基づき採用を行うべきですが、総務としても、必要な時に必要な人員を必ずしも確保できないのが現状です。

充足率についてですが、定員に対して実際の職員数が配置できていない状況が続いています。そのため、まずは限られた職員の中で工夫して業務を遂行するとともに、必要に応じて会計年度任用職員を配置することで、一時的な対応を行い、何とか業務を回しているというのが実情でございます。

委員 　　ありがとうございました。福祉専門職というのは、昔は自分で解決するべき

ところはしていたようなところがあるんですけど、今はとにかく市へ繋げると、何か問題があったら市へ繋げるとそこでいいよってというような説明がされているわけですね。必ずしも民生委員というのは専門性がある人ばかりではなくて、要するに相手方の言わんとする困ったこととか苦しいとことか、こうして欲しいというのを聞き取る、それを市へ繋げる。問題解決するような福祉の専門的に勉強してきた、そういう職員を採用していただきたいというような声がありました。福祉職、県とか国とかってというのは当然あるかと思いますが、市の方も、これから10年くらい経ち、団塊の世代がほとんど寝たきりとか、非常に生活に困るといような状況が生じてくるのは目に見えていると思うので、ぜひその専門職の採用についてご検討いただきたいと思います。以上です。

委員 No. 24の温室効果ガスの削減について、非常に素晴らしい取り組みだと評価しております。

ただ、報告いただいた数字だけでは、その削減規模や効果の大きさが実感として伝わりにくく感じました。できれば、「従来の電力使用量からどれくらい削減されたのか」「コスト換算でいくらになったのか」など、私たちでも具体的にイメージできるような指標を示していただけませんか。そういったデータがあれば、より適切に判断しやすくなると思いますがいかがでしょうか。

事務局 ご指摘ありがとうございます。前回のプログラム策定時には、行財政改革の観点から、取り組みによる効果額を数値でお示ししておりました。

施策の中には正確な効果額を算出することが困難なものもあり、今回の「第2次プログラム」におきましては、原則として効果額の明記は見送る方針としております。

ただ、ご指摘の通り、内容によっては具体的な数値での提示が可能なものもあるかと思えます。今後、取りまとめを行う中で、皆様にとってより分かりやすい指標がお示しできるものがないか、検討を進めてまいりたいと考えております。

委員 No. 1の資料について数値の確認です。資料では、策定時の目標値が29万となっている一方で、実績欄では面積の減少幅が約549となっているかと思えます。取り組みによる減少幅は出ているはずなのに、なぜ令和6年度の実績数値が（目標より）増えているのか、実績が増加した背景について詳しく教えていただけますでしょうか。

事務局 資料2-1の取り組みのところではいきますとまず策定時の面積が29万平米だったという状況で、6年度の実績については、29.09万平米になっていますので、この策定時の29万と6年度の実績29.09万平米で比較しますと、この面積は削減していく方向の目標値を立てていますので、増えたことに対するマイナスのパーセンテージと進捗率ということでお示しをしています。これは策定時の面積29万平米は4年度の実績値でお示しをしているところですけども、その次の5年度のときに、面積が増えたという状況がございます。6年度の取り組み内容にお示ししております実績値548.97平米減ったということでありまして、これは5年度と比較しますと、548.97平米減っているという状況ではあります

が、4年度との比較では、まだ増加の方に働いているという状況から、進捗率としますと、マイナス6.43というような状況になっておりますので、お願いをいたします。

委員 ありがとうございます。続いて、No.4の公園について伺います。「公園施設長寿命化計画」を拝見したところ、本市の公園はかなりの割合で修繕が必要な状況であると認識しております。今回、必要性に応じて5箇所の公園が修繕されましたが、この計画に基づいて今後も進めるとなると、毎年度修繕箇所が増え、必然的にコストも増大し続けるのではないのでしょうか。そのような状況下で、令和10年度の目標である「300万円の削減」は、通常の維持管理を続けているだけでは達成できないのではないかと懸念しております。具体的にどのような計画でこの削減目標を達成されるお考えでしょうか。

事務局 公園施設は維持管理に伴い、常に修繕や更新が必要となります。今回掲げている「300万円の削減」という目標は、ライフサイクルコストの削減を目指すものです。これは、公共施設等総合管理計画とも連動する考え方であり、不具合が生じてから対応する「事後保全」ではなく、計画的な「予防保全」へ移行することで、中長期的なコストの削減を図るという趣旨でございます。事後的に修繕を繰り返すよりも、予防保全によって施設の長寿命化を図る方が、結果として費用を抑制できるという考えに基づき、この目標値を設定しております。なお、令和6年度の実績については、削減ではなく600万円の増加となっております。これにつきましては、担当課に確認したところ、計画よりも前倒しで修繕に取り組んだ箇所があったため、一時的に費用が増加したという報告を受けております。

委員 公園修繕費について、計画より前倒しで取り組んだ結果、6年度は費用が増加したとのことだが、物価高騰の影響もあり、今後は全ての修繕を行うのではなく、優先順位をつけた検討をお願いしたい。また、評価基準（ABC評価）について、項目により評価の判断基準が異なり主観的な印象を受ける。資料の見やすさの観点からも統一をお願いしたい。

続いて、評価基準についてお伺いします。

No.6の「イルフプラザ出張所の廃止」については、既に来年度の達成が見込まれている状況です。ABC評価において、達成が確実であるならば「B」評価が妥当ではないかと考えますが、現時点では未達成であるため「C」とされているのかと推察します。

一方で、No.13・14については、現時点で効果が現れていないにもかかわらず、達成に向かっているという理由で評価がなされています。このように、項目によって評価基準の考え方が異なっているように見受けられます。

評価基準が主観的になってしまっている懸念がありますので、今後は評価の付け方を統一していただきたいです。そうしていただければ、私たちも資料を精査しやすく、より建設的な意見が述べられると考えます。

事務局 評価については、策定時の実績値に対してプラスに働いたかマイナスに働いたかを基準としている。No.6（出張所廃止）については、7年度の目標達成は

見えているものの、6年度時点では人件費がかかっているためマイナス評価とした。No.13、14については、実績値は0だが、検討を前向きに進めている点からB評価としている。今後はより分かりやすい一定の基準で評価できるよう努めます。

委員 No.20の広告事業について、現状はホームページやアナログ媒体が中心だが、若い世代にリーチするSNS等の新しい視点を取り入れてほしい。

事務局 広告枠の確保・拡大に向けて取り組んでおり、効果的な宣伝となるよう努めます。

会長 はい、ありがとうございました。その他何かご意見ありますか。よろしいでしょうか。

～特になし～

会長 No.21の市債借入キャップ制について、目標達成しているが、本来やるべき事業を先送りした結果ではないか。

事務局 限られた財源の中で優先順位をつけ実施しており、必要な事業を先送りしている事実はないです。

会長 はい。わかりました。その他よろしいでしょうか？特にございませんでしょうか？それではその次に進めていきたいと思えます。

(2) 令和7年度行動計画について

委員 次第3の(2)令和7年度取り組み計画について、事務局より説明をお願いいたします。

事務局 はいそれでは続いてよろしくお願ひいたします。資料4になります令和7年度の取り組み項目の計画内容ということで、ご覧をいただきたいと思えます。

こちらの方でもいくつか主だった内容のものを説明させていただきますのでよろしくお願ひいたします。

初めに1の公共施設等総合管理計画および公共施設個別施設計画の推進であります。こちらについては施設の方向性を決定していきますということで位置づけられている施設の今後のあり方に向けて、引き続き協議を進めていくというところ、それから現計画の計画期間が今年度満了を迎えますので、計画の見直し、策定に向けた作業を進めていくという内容になっております。

それから続いて2番になります保育園整備計画の推進になります。こちらは保育園整備の中期計画に基づきまして現在進めております西部地区4園の集約、それから幼保連携認定こども園の整備に向けて進めていくという状況であります。

今年度では設計業務の他、必要に応じた説明会の開催、それから教育委員会との連携を図りながら進めていくという状況でございます。

2ページをご覧いただきたいと思えます。

5の岡谷市魅力と活力ある学校作り推進プランの推進にあります。こちらは、川岸小学校の大規模改修としまして今年度では既存校舎の解体それから中学校との接続棟施設の設置に着手していくという状況でございます。

続いて3ページをご覧くださいまして、10のデジタルツールの活用による業務効率化の推進でございます。こちらはデジタルツールの活用を広げるべく生成AI、コミュニケーションツール、こういったものを始めまして、幅広くツールの情報収集を行いながら活用に向けた検討を進めていく中で、業務効率化を図っていききたいという状況でございます。

それからその下11のペーパーレス化の推進になります。

こちらは職員端末を含めました抜本的な見直しを今後行っていく中で、ペーパーレスに向けた最適な環境構築に向けまして、検討を進めていくという状況でございます。

続いて13の公民連携手法の活用になります。

こちらは美術考古館の管理運営につきまして、現在指定管理制度を導入する方向で進めておりまして、令和8年度からの運用開始に向けて今年度指定管理事業者の選定作業を進めていくというような状況でございます。

4ページをお願いいたします。

こちらは18-1からその次のページ18-4までご覧いただきますと、市税等の徴収率の維持と向上ということでそれぞれ、各種ごとに取り組みを進めていきますけれども口座振替の勧奨ですとか丁寧な納税相談を行う中で、徴収率の向上に努めていくというところでございます。

それから、20-1から7ページにかけて20-15まで続いておりますけれども、こちらは広告事業の推進ということで広告料収入の確保に向けて、勧奨広告の拡大に向けて取り組んでいくという状況でございます先ほど委員さんからもお話ありましたけれども、今の状況でいきますと何となく最低限は今ある広告枠は確保していききたいという状況ではありますけれども、当然広告を予定している事業者から、その広告枠を活用することによって、効果的な宣伝効果があるというものでなければ手挙げしてもらえないかなという状況もありますので、今後市の方も広告枠の確保拡大に向けても取り組んでいきたいというところでございます。

続いて7ページの22になります。

補助金負担金の見直しになります。こちらは3年に一度の取り組みということで一斉見直しという形で取り組んでおりますけれども、この令和7年度が一斉見直しの年という形になっておりまして、この補助事業のこれまでの経過ですとか、必要性それから効果などを検証する中で補助事業の適正化を図っていくという状況でございます。

8ページをお願いいたします。

24の岡谷市役所環境保全率先実行計画Ⅵの推進になります。こちらは先ほど少しふれさせていただきましたが、現在の計画が今年度で満了となるということで、8年度以降の新たな計画を策定していくために、作成をした上で、また改めて令和10年度の目標値を設定していくというような方向で今予定をしております。

9ページになります。

30の職員研修の充実でございます。こちらは限られた職員体制の中で職員1人1人が、能力を最大限に発揮するための人材育成を効果的に実施していきたいとしております。

10ページをお願いいたします。

34にあります多様な市民ニーズに応える効果的な人材確保でございます。こちらは、正規職員と会計年度任用職員が担うべき業務の整理を行いつつ、専門的それから臨時的それから補助的な業務に対して、この会計年度任用職員制度を効果的に活用していきたいとしております。

続いて36、地域おこし協力隊の活用でございます。こちらは移住定住の促進、それからシティプロモーションの取り組み、こちらを強化、充実させていくために、地域おこし協力隊を今後募集していきたいというところでございます。

以上が令和7年度の計画となります。

よろしくをお願いいたします。

会長 はい、ありがとうございました。

それでは今事務局から説明がありました内容について質問に移ってまいります。事前に質問いただいておりますのでそれについてお願いいたします。

事務局 1. 公共施設等総合管理計画および個別施設計画の推進について

第2期計画の策定に向け、現在取り組みを開始しております。第1期の検証を行うとともに、今後の方向性や整理が必要な施設の取りまとめを進めている段階です。

2. 情報システムの共通化・標準化について

令和7年度末までの標準準拠システムへの移行についてのご質問ですが、現在、令和8年1月の運用開始に向けて計画的に進めております。

3. 行政手続きのオンライン化について

オンライン化推進のため、地区へ出向いての出前講座等の検討が必要ではないかとのご意見をいただきました。手続きの周知は最も重要であると認識しており、今後は担当課から対象者への直接的な案内の強化や、配布チラシへのQRコード掲載など、利用者が迷わず手軽に申請できる環境整備に努めます。また、システムの再構築も含め、より利便性の高い手続き環境を目指して検討を継続してまいります。

4. デジタルツール活用による業務効率化について

利用回数の減少と進捗率低下についての分析ですが、令和5年度は計画策定業務が重なり会議開催が多かったため数値が伸長しましたが、令和6年度は平常時の開催頻度に戻ったことが主因です。また、業務時間の削減率については、会議録作成時の録音環境により文字起こし精度が異なり、職員の手作業が発生したことが影響しております。現在は録音環境の改善に向けた検証（マイクの仕様変更等）を行っており、今後も新しいツールの検討を含め、職員の負担軽減を図ってまいります。

5. 職員提案制度の充実について

『実現可能性のみを重視して本来の目的が本末転倒にならないか』との懸念

をいただきました。本制度は職員の意欲・満足度向上と組織全体の生産性向上が主目的です。そのため審査では、実現性に加え、独自性や工夫・努力の過程などを総合的に評価しています。行財政改革の一環として実施率を指標としておりますが、評価の高低にかかわらず、提案の実現に向けて全庁的に前向きな検討を行っていく方針です。

以上が事前にいただいた質問の回答になります。

会長 はい。ありがとうございます。それでは回答いただきました内容につきまして改めてご質問等ございますか。なければその他説明ご質問あればお受けいたしますがご質問等よろしいでしょうか？

委員 職員提案制度において、実現可能性だけで判断すると本来の目的から外れるのではないかと。また、ペーパーレス化について、6年度はむしろ増加しているが、削減の見込みはあるか。本会議から率先してペーパーレス化すべきではないか。

事務局 職員提案は実現性だけでなく、独自性や工夫も評価対象としている。ペーパーレス化については、教育関連など一時的な要因もあったが、今後環境構築を含め削減に努める。会議のペーパーレス化は、参加者の機器環境の課題をクリアしながら段階的に広げていきたい。

会長 その他ございますか。

委員 補助金見直しについて、中間的な実施状況の発表は可能か。また、ペーパーレス化に伴う過去データの保存方針について伺いたい。

事務局 補助金・負担金の適正化につきましては、今年度が3年に一度の見直し該当年であり、現在作業に着手したところでございます。具体的な成果については、次年度の実績報告にて詳細をお示しできると考えておりますが、現時点で中間報告を行う予定はございません。また、ペーパーレス化の推進について、現在は、印刷物そのものを削減し、用紙代やコピー代等の経費を抑えることを主眼に取り組んでおります。ご指摘いただいたデータ保存のあり方につきましては、現時点で即答はいたしかねますが、庁内の文書保管スペースが逼迫している現状は認識しております。今後は、新規書類の作成抑制や保存年限の見直し、また電子データでの保存体制の構築など、より踏み込んだ検討を進めていきたいと思っております。

委員 先ほど若干触れたのですが、20番の広告のところ、SNSでの広告とか、企業さんの人のお金をいただいての紹介とかそういうのは考えていらっしゃるのでしょうか？

事務局 岡谷市の公式のSNSでいくと、Facebookあと蚕糸博物館でインスタグラムを運営していますが、今現在でいくと、広告媒体としては使っていないというのがおそらく現状かと思っております。今ご意見いただきました、広告媒体を拡大していったらどうかというご意見かと思っておりますけれども、こういった部分につきましては、毎年予算編成の中で各課に対して特定財源の収入よく考えてくれといった指示を出しておりますのでSNSも含めて、我々の方から事業課の方にも提案してみたいと思っております。

- 委員 現在、10代～20代の若年層はSNSで情報を得るのが一般的です。現状の市の媒体は若年層の視点に立っておらず、LINE通知等も彼らの関心を惹きにくい内容にとどまっていると感じます。若者に情報を届けるためには、SNS活用を前提とした抜本的な見直しが必要です。
- また、媒体が何であれ、登録者数が増えなければ広報効果は限定的です。SNS運用で成功している先進自治体の事例を積極的に調査・研究し、戦略的な運用を図るべきだと考えます。
- 併せて1点お伺いしたいのですが、現在市が運営しているYouTubeチャンネルは、具体的にどこの部署が主導して制作・管理を行っているのでしょうか。」
- 事務局 シルキーチャンネルの番組をYouTubeに公開しているということであれば市の秘書広報課が担当になります。
- 委員 広報とDX推進の観点から2点提言します。
- まず、YouTube等のSNS活用についてです。現状、ライブ配信や議会中継の画質が低く、コンテンツの内容も市民のニーズと乖離しているように見受けられます。スマートフォンの普及した今、画質の向上を含めた発信手法の抜本的な見直しと、より魅力的なコンテンツ作りに積極的に取り組んでいただきたいと考えます。
- 次に、AI・DXの推進についてです。資料には『AI活用検討』が目標として掲げられていますが、現状の目標値（業務時間削減・紙の削減）だけでは、1年後の検討結果が曖昧なままでも目標達成と見なされかねません。AI技術の進化は極めて速いため、単なる『検討』で終わらせず、具体的な導入効果や実装を見据えたスピード感のある取り組みを求めます。また、SNS運用へのAI活用も提案します。職員の負担を軽減しつつ、ホームページだけでなくSNSによる効果的な情報発信を行うことで、岡谷市の魅力をより広く伝えることが可能です。先進事例も参考にしながら、ぜひ前向きに検討してください。
- 会長 その他よろしいでしょうか？
- 委員 人口減少による歳入減と行政サービス維持のコスト増を見据え、本行財政改革プログラムは『歳入確保』と『歳出削減』の両立を目指すものと理解しています。しかし、現状のプログラムは歳出削減に重きが置かれ、歳入確保の具体策が不十分ではないかと懸念しております。
- 歳入確保の観点から一つ提案です。例えば、河川の占用料等の見直しです。企業が河川を占用して用地として利用している場合、個人の負担額と比較して適正な対価が徴収されているのか精査が必要です。こうした公共資産の適正評価を含め、企業誘致や都市計画の観点まで踏み込んだ歳入確保策を検討すべきと考えます。
- 会長 その他いかがでしょうか？よろしいでしょうか？特に追加の質問はございませんでしょうか？
- 委員 21番の市債の借入におけるキャップ制について伺います。この制度は一般会計のみが対象という認識ですが、企業会計である病院会計や水道会計は、今回の行政改革審議会の検討対象にはならないのでしょうか。例えば、病院会計に

は一般会計からの繰出金が含まれています。そうした状況を鑑みると、企業会計の起債についてはこの場で議論しなくてよいのか、見解を伺いたいです。

事務局 企業会計については独立採算が原則だが、一般会計からの繰出金もあるため、状況に応じて検討の余地はある。まずは本審議会において一般会計の運営を議論いただきたい。

会長 その他、よろしいですか。
それではこれで岡谷市行財政改革プログラムに関する報告進めましたが、以上で本日予定しておりました議題はすべて終了いたしましたので、進行を事務局にお返しいたします。

3 その他

事務局 会長ありがとうございました。それでは次第の4になります。その他になりますが、全体を通じまして委員の皆さんより何かありますでしょうか。

事務局 それでは事務局からご案内をいたします。委員の皆様におかれましては今月末をもちまして現在の任期が満了となります。審議委員としての業務は本日が最終となります。ここで任期満了をもってご退任されます委員の皆様をご紹介させていただきます。お名前をお呼びしますので、ご起立いただきまして一言ご挨拶を頂戴できればというふうに思います。

～退任される委員の紹介および挨拶～

事務局 ありがとうございました。

3名の委員さんにおかれましては長きにわたりまして、市政発展のためにご尽力を賜りました。感謝申し上げます。誠にありがとうございました。最後に事務局から連絡事項がありますのでよろしくお願い致します。

事務局 はい。よろしくお願い致します。これまでお話ありましたように、7月末をもって任期が満了となるということで、今ご挨拶いただいた委員の皆様、本当にありがとうございました。その他の委員の皆様におかれましては、8月以降新たな任期という部分で内内ではまた改めてお願いしたいというところで内諾をいただいているところでございます。また詳細につきましては、8月に入りまして新たに委嘱書の交付ということで予定させていただきます。またご通知申し上げますので、ご都合をつけていただければと考えているところでございます。また引き続きどうぞよろしくお願い致します。本日は貴重なご意見を頂戴し、誠にありがとうございました。

4 閉会

事務局 本日は、委員の皆様から貴重なご意見を頂戴し、誠にありがとうございました。それでは、以上をもちまして、令和7年度第1回岡谷市行政改革審議会を終了といたします。ありがとうございました。